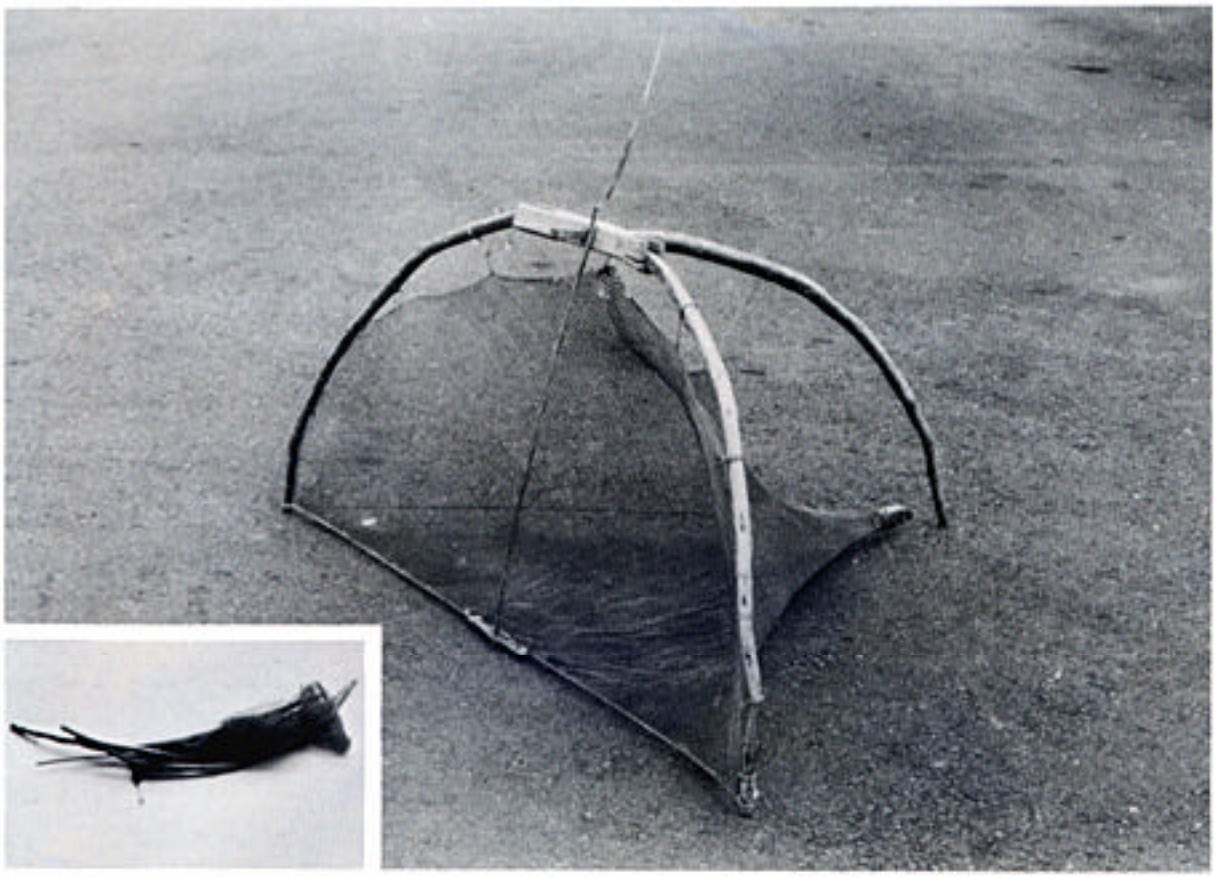
森の通信

The Miyazaki Prefectural Museum

宮崎県
総合博物館だより
第３号

発行日/昭和60年12月5日

発行／宮崎県総合博物館　〒880 宮崎市神宮２丁目４の４　TEL (0985) 24－2071



資料名：サ　デ
収集地：宮崎市金崎
計測値：網口底部 112.5cm，高さ 58.3cm，奥行 84.0cm．

サデ〈叉手〉は、網口底部約120 cm、高さ60～70cmの半円状の網口に奥行き60～70cmの三角錐状の漁具である。網口・底は細い枠木で、柄も径５～６cm、長さ110～120 cmの木や竹で固定されているのが一般的である。川や池で小魚を獲るのに重宝なこの漁具も、かさばるので持ち運びや保管に大変不便なものである。しかし、この資料は折りたたみ式になっており、前述の欠点をみごとに解決している。網は上部は堅木（かたぎ）をくりぬき枠木と支木を差し込むようにしてある。枠木と支木は弓状に湾曲した杉の枝を利用している。カーブした枝は網口を広く保ち、そして、杉枝の弾力は網をピンと張るのに効果的である。また、網を枠木に固定するのに下部だけしっかり結びつけ、上部は組立て時に結び、脱着可能になっている。固定式にくらべ重量的にかなり軽くなっているのも工夫されている点の一つである。

叉手は追込み漁具である。川岸近くの水草の茂みや藻草の多い場所に網底を定着させ、上流から竿や足などで威嚇（いかく）しながら魚群を追込みすくい獲るのである。コイ・フナ・ウナギ・ナマズなど、川口ではチヌ・ハゼなども獲れる。漁期は特にないが、雨のあとなど水の濁った時が最良である。

（前　田）

展 示 案 内〔話題のコーナー〕

●埋蔵文化財センター（平畑遺跡・10月5日～3月31日）

平畑遺跡は宮崎学園都市遺跡群（宮崎市熊野～清武町木原一帯に点在する25カ所の遺跡群）のひとつです。以前から縄文時代の遺跡として知られていました。昭和57年から、県教育委員会では宮崎大学農学部の移転に先だって発掘調査を行いました。その結果、平安～鎌倉時代（今から約1200～600年程前）や縄文時代後半（後・晩期、約2500年程前）の屋敷・住居・溝などの遺構やたくさんの遺物（土器・石器類）が発見されました。県内では、まだ縄文時代後半の遺跡の発見例は少ないので、今回は縄文時代をとりあげて展示しています。

展示では、平畑遺跡で60軒あまり検出された住居跡のうち、時代的特徴が比較的よく現われている1号住居跡に残されていた遺物を中心に、日常生活用品としての様々な形の土器やいろいろな用途の石器、そして、儀式や呪術（じゅじゅつ）（まじない）に使われた道具などを紹介しています。また、これらの土器から、南九州地方には縄文土器という名称のもとになった「縄目紋様」の土器はほとんどみられないこと、貝殻や棒で紋様がつけられていること、粗雑な作りの土器と磨かれたていねいな作りの土器があること、煮炊きに使われて外側にススのついた土器があることなどがわかります。今回は初めての試みとして、実際に土器の破片を手に触れて観察できるコーナーも設置しています。

（菅　付）

ひとくちゼミナール・ひとくちゼミナール　たこ　ひとくちゼミナール・ひとくちゼミナール

年の瀬にもなるとゲイラ等の洋凧に混って、伝統的な地方色豊かな凧が生きもののように大空を泳ぎ始めます。凧あげは、古代中国が元祖といわれます。漢の武将韓信は、凧をあげて敵陣までの距離を測ったり、トンネルを作って敵を攻めたりするのに使ったようです。西欧では、ギリシャのアルキタスが友人のプラトンの肖像画を凧に描いてあげたのが始まりだといわれています。

日本では、平安初頭ごろ唐伝来の凧が宮中の貴族の間で遊ばれていましたが、戦国時代は、密書を飛ばしたり、狼煙（のろし）用などに利用したようです。凧あげが盛んに行われたのは、江戸時代になってからで、庶民一般にも普及し、子供の正月の遊びとして流行しました。庶民は凧あげが好きで、ケガや喧嘩が起き明暦元年（1655）には凧あげ禁止令が出たほどです。元禄時代（1688）ごろが最もさかんで、寛政（1789）のころになると凧問屋まで誕生しました。初めは、トンビの形でしたが、四角、六角、八角と変化し、凧絵も錦絵凧など生まれ、絵、色とも多彩になりました。特に、波にうさぎ、源義経、加藤清正、雲竜などの絵凧、藍（あい）地に白抜きの竜、虎などの文字をいれた字凧が代表的なものでした。日本の凧の特徴は、絵柄が美しく鮮かな上に弾力性のある竹、風にも強い和紙を使用していることです。

鬼ようちょう（長崎県）

また、大阪の扇凧、四国の奴凧、水戸のトンビ凧など各地方によって特色のある凧が創られました。明治時代以降、凧あげは年々衰退しますが、最近になって民具・民芸の価値観と共に、民芸凧をはじめ大凧、連凧など郷土色を生かした凧が見直されてきているようです。（川辺）

採集作品展を終えて

小・中学校児童生徒を対象にした第14回の採集作品展を、去る９月25日（水）～10月６日（日）に開催しました。これは自然学習の機会をつくる目的で毎年行っているもので、昆虫・植物・貝・岩石等の採集作品を県内全部の学校に呼びかけて募集しています。今年は178件・243点が集まりました。審査の要領は、標本の条件がそろっているか、学年相応の作品であるか、ねらいがはっきりしているかなどで、審査の結果、特別賞に４件、優秀賞に７件、入賞に13件、入選に38件が選ばれました。表彰式では入選者全員に館長から賞状と賞品が手わたされました。入選された方がた、おめでとうございました。

今年の傾向としては、中学生の作品が非常に少なかったこと、団体による作品が多くなってきたこと、既成概念をこえたユニークな作品が多かったことなどがあげられます。

たくさんの応募をいただき、ありがとうございました。　（斉　藤）

日向女性の喜びと悲しみの物語展示

◇◇新　春◇◇

○１月１５日～２月９日

民家園から－民家の開放を実施!!

博物館東側の民家園は、社会科学習の小学生、過ぎ去った昔や故郷をなつかしむ人々、若いカップル、旅行者等四季を通じて多くの見学者があります。近ごろ、これら見学者の中から部屋に上がりもっと身近に見学したいという要望の声をきくようになりました。館ではこのことを十分検討して、従来のそとや土間からの見学だけでなく、四棟全ての民家を開放することにいたしました。開放して３カ月、梁や天井・板戸などじっくり見る人、いろりの周りに座ってみる人など好評をえています。　（前　田）

日州路 ― 柏田貝塚 ―

宮崎市柏田貝塚（遠景）

大正７年、まだ瓜生野柏田は宮崎のまちから遠かった。馬車にゆられた京大浜田耕作博士一行は柏田にある直純寺に着いた。貝塚調査のためであった。貝塚は寺の境内の東斜面竹ばやしの中にあった。報告によると、貝層は厚さ２尺内外でカキ・シオフキなどあり、土器や石器の量も少なく、あまり大きな遺跡ではないだろうという。この貝塚は本県では数少ない縄文時代早期の貝塚である。南に流れる大淀川の向こう岸には同じ時期の跡江貝塚もあり、海が近くにせまっていたことを語ってくれる。出土した土器は貝殻文に特徴があり、学史上に名を残した「柏田式土器」として知られるようになった。調査を終えた浜田博士の一行は冷えの深まる夕暮れどき、尾立遺跡（綾町）に向かうため、ふたたび馬車にゆられることになった。柏田あたりの野山や町並み、大淀のゆったりとした流れは今に姿をとどめている。竹林を前に耳をすますと、遠い古への息吹きがいまにも聞こえそうな気のする静けさだった。　（岩　永）

ずいひつ　季節のたより

フェニックス自然動物園長　片　山　　望

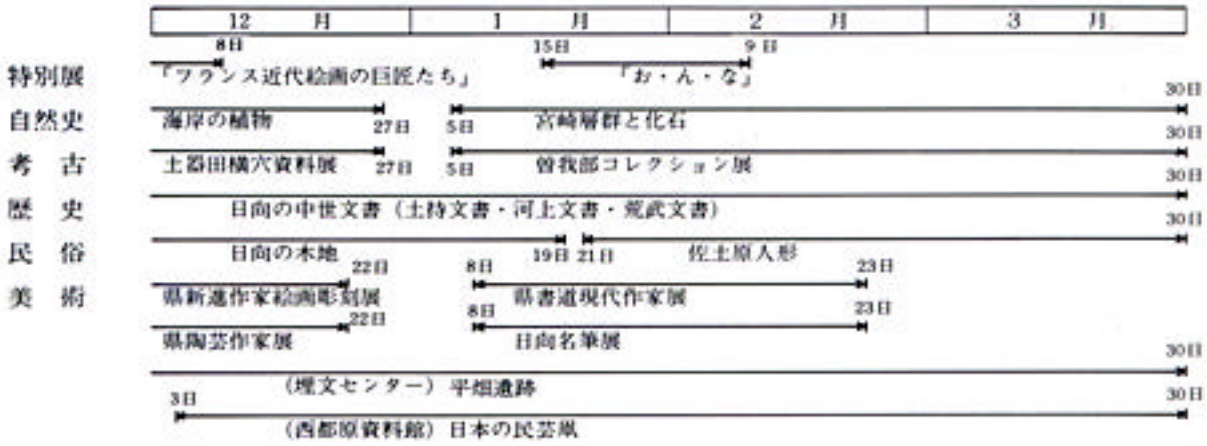
出水平野にツルの第一陣が到着した、と伝えられて早くも一カ月が過ぎようとしている。このツルたちにえさをおくろう・・・と県内の子供達に「落ち穂拾い」をよびかけ、すっかり定着してきたこの運動もすでに７回目を迎えた。今年は、学校田で収穫した小麦やまだ食用として充分に利用できる大量の古米が農家から持ちこまれるなど、その輪は年々大きくなりつつある。有難いことだ。

また、開園して間もない頃、園内の緑に色を添え、小鳥の森づくりの一助にと植樹した20余本の渋柿の木に、今年はじめて数10個の熟柿がついた。桃栗３年、柿８年の諺どおりここ４～５年うすみどりのかわいい実をつけることはあっても、間もなく落果し残念に思っていただけに、15年振りの結実の喜びはひとしおである。早速、ヒヨドリが飛来、次々に彼等の胃袋に納まってしまったけれども、これからは年ごとにその数を増し、初冬の風物詩の一つとして来園される方々の目を楽しませてくれるに違いない。

ところで園内には1,000羽を越すクジャクバトがいる。緑を背景に純白がはえ、餌に群がり人鳥一体となって乱舞するさまは独特の雰囲気をかもしだしてくれる。しかし、師走を間近に季節風が吹きはじめるこのシーズン、一時的ではあるのだが広い園内に散開しあちこちで単独行動を見せはじめる。餌袋を片手に、ポー、ポー、と懸命によびかけるお客の声にもそしらぬ顔で頭を上下し、嘴を左右に振りながら、異様とも思える動作で走り、止まり、また駆ける。先廻りをして彼等の目指すものは？　とよく見ると、そこには米粒の半分程の小さな松の実があり、あっという間に嘴の中に消えてゆく。松の実といえば、高脂肪、高蛋白、それでいてふくよかな甘味もあり、種類によっては左党の酒の肴にもなり私共人間にとっても貴重品だ。勿論、彼等にとっては園側で準備をしている配合飼料とは比較にならぬ程、趣好性の高い自然食品なのだろう。年に一度の自然のおくりものを目の前にして懸命に啄ばみ、その姿をみて私共は季節の移り替りを身近に感じ、冬の到来を知ることになる。

〈訂　正〉　第１号で紹介した獣文縁獣帯鏡の銘文は、「君宜子孫」ではなく「宜子孫」でした。おわびして訂正します。

３月までの催しもの



（森の名画座）……2/5　野菊の如き君なりき　　3/5　ゴッドファーザー part 2

（森のコンサート）……1/12　新春邦楽演奏会　　2/15　母と子のための音楽会

（美　術　展）……3/8～3/16　宮崎県美術展

（書　道　展）……12/14･15　宮崎県中央支所書道展　　3/21～3/23　宮崎県書道展